みなさんの疑問にお答えします

～新庁舎建設Q＆A～

Q どうして今、分散している庁舎を集約するのですか？集約するメリットは何ですか？

A 現在、役場庁舎は上湧別庁舎、湧別庁舎および文化センターさざ波に分散しており、町民のみなさまに複数の庁舎での手続きなどの不便をおかけしていることから、町民の利便性の向上が課題となっています。

また、町の業務は多岐にわたり、1つの部署だけで解決することが難しい課題も多く、複数の部署が連携して課題解決していく必要があります。

庁舎を集約することにより、効率よく迅速なサービスの提供や課題解決に対応できるなど、行政サービスの向上につながるほか、庁舎が分散するとそれぞれに必要となる維持管理費や、セキュリティ対応・システムネットワーク運用経費、庁舎間の移動に要する公用車の経費、職員の人件費などが集約することで縮減できます。さらに、湧別庁舎は耐震基準を満たしていないことから耐震改修が必要となっています。

行政機能を集約するメリットは、町民の利便性の向上と、行政事務の効率化や経費節減が図られ、町民サービスの向上につながるものです。

さらに、集約に係る費用については、合併した町だけが借入できる合併推進債を予定しています。そのためには令和6年度までに実施設計の契約完了が必要なことから、現在の計画を進めているものです。

Q 新築ではなく、現庁舎を大規模改修で良かったのでは？

A 基本構想を策定する際に設置された「庁舎等検討委員会（基本構想）」では、町長からの諮問に応じ、行政機能の集約について調査・審議していただきました。委員会からの答申では、庁舎の方式は「本庁・支所方式」が望ましい。また、集約の方法は「中湧別地区に庁舎を新築整備」することが望ましいとありました。

現庁舎の改修も検討しましたが、湧別庁舎は昭和53年建設で、令和6年で46年目を迎え耐震改修の必要があり、さらに津波警報時には避難が必要なことから、本庁舎にすることは難しいと考えられます。

上湧別庁舎は昭和62年建設で、令和6年で37年目を迎えます。こちらに行政機能を集約し、保健福祉センター機能も配置するには増築が必要であり、改修、増築をするためにも多額の費用がかかります。また、改修したからと言って建物自体の寿命が延びるわけではなく、10年から20年程度で建替えを検討する必要があることから、町として検討委員会からの答申結果を重く受け止め、30年、50年先を見据えて、新庁舎を建設することとしました。

Q 新庁舎はどこに建てるのですか？

A 答申の意見にあった建設候補地2カ所を含む中湧別地区で検討し、新庁舎の位置は、

①行政エリアが広い本町にとって不可欠な公用車の車庫や、多くの来庁者が自動車利用のため必要となる駐車場などを、一体的に整備可能な十分な用地が確保できる

②保健福祉センターなどを中湧別小学校校舎に配置することで既存校舎の活用ができる

③新庁舎の面積縮減も図ることができる

ことから中湧別小学校跡地としました。

なお、もう一つの候補地である老人憩の家周辺の町有地については、湧別高校の魅力化と中湧別市街地の活性化にもつながる学生寮の建設地として計画しています。

町ホームページではQ＆Aをはじめ、庁舎集約化に関する情報を詳しく掲載しています。

Q議会では決まったのですか？

A新庁舎建設については、これまで策定した「湧別町庁舎等集約化基本構想」および「湧別町新庁舎建設等基本計画」、さらに今後策定を進める「新庁舎建設の基本設計・実施設計」に関連するすべての予算は、議会の承認を得て進めてきました。

最終的に庁舎の位置を中湧別小学校跡地に変更するためには「湧別町役場の位置を定める条例」の改正議案を議会に提案し、出席議員の3分の2以上の同意が必要となります。

町では、この条例改正案を新庁舎建設工事費の予算案と一緒に、令和8年3月の議会定例会に提出する予定です。

Q新庁舎はどれぐらいの規模になるのですか？

A基本構想の初期段階では、集約に必要な行政機能部分の必要面積を、庁舎内にいる職員数138人（令和4年9月1日現在）、議員数11人で国土交通省の新営一般庁舎面積算定基準などにより算出した約4，500平方メートル、保健福祉センター機能部分を約7００平方メートルとし、全体で約5，２００平方メートルと計画していました。

しかし、最終的に基本構想策定時には、職員数135人（令和5年4月1日現在）、議員数11人で算出し、保健福祉センター機能などを中湧別小学校校舎に配置し、他の自治体の事例や文書の電子化などを考慮して、新庁舎の必要面積を約3，５００平方メートルに縮小しました。

さらに、基本計画策定時には保健福祉センター、児童センターなどを配置する中湧別小学校は既存校舎の面積となる約3，９００平方メートルとしました。

Q中湧別小学校校舎には何が配置されるのですか？

A現在の保健福祉センターは、湧別庁舎に併設されており、総合健診、予防接種などの行政サービスを行う健康と福祉の拠点となっています。そこで、保健師などの専門職員が勤務する庁舎に近い小学校校舎にその機能を移設する予定です。

また、認定こども園みのりの隣に位置する児童センターですが、認定こども園が手狭となっていることから、児童センターを小学校校舎に移転することで保育環境を充実させる計画です。

さらに、湧別高校魅力化のためeスポーツスタジアム、公設塾の設置を検討しています。

その他にも、子どもが体験しながら遊べるスペース、公共施設再配置実行計画で解体を計画している公共施設の機能の一部（木工室、多目的室）を合わせて配置する計画となっています。

Q人口の減少にともない、職員数の減少も考慮していますか？

A新庁舎の規模は、将来の人口減少を考慮しつつも、今後の行政ニーズと社会変化にも十分対応できるようにする必要もあります。多様化・複雑化する行政ニーズに的確に対応するためには、人口減少にともなう業務や職員数の大幅な縮小は難しいと考えています。

したがって、現状の職員数により庁舎面積を算定していますが、同時にユニバーサルレイアウトを取り入れ、職員数の変化に対応できる柔軟な配置を検討します。

Q新庁舎建設、小学校校舎改修にかかる事業費は？

A基本計画では、新庁舎建設30億円、小学校校舎改修14億円、外構工事2.2億円、車庫などの付帯工事８千万円、設計委託費2.6億円、湧別庁舎の解体工事2.8億円、備品購入費1.7億円、合計で54億１千万円を想定しています。

ただし、近年は人手不足が深刻化し、建設資材価格や労務単価を含む建築費が高騰している状況ですので、基本設計・実施設計を進めて最終的な事業費を精査予定です。